

大阪芸術大学文芸学科×谷崎潤一郎

谷崎文学をデザインする

本展では、大阪芸術大学文芸学科の学生たちが、谷崎潤一郎の文学作品をテーマに制作したデザイン作品を展示します。〈谷崎文学〉を現代の視点から読み解き、その世界観をポスター等によるビジュアル表現へと展開しました。没後六〇年を経た今、時代を越えて読み継がれる〈谷崎文学〉と現代の感性が出会う表現を紹介します。



30歳頃の谷崎（大正5年）

谷崎潤一郎

1886～1965年
(明治19年～昭和40年)

小説家。明治から昭和にかけて活躍した、日本を代表する作家の一人である。「痴人の愛」「春琴抄」「細雪」などの名作を通じて、恋愛や官能、家族関係を題材に、日本の美意識と近代的な価値観の揺れ動きを書き続けた。関東大震災をきっかけに兵庫へ移住、古典文学や伝統文化への関心をいっそう深め、独自の文学世界を確立した。

大阪芸術大学の文芸学科では、小説家やコピーライターをはじめとする多くの書き手を輩出してきました。他方で、変化の激しい時代に対応できる出版・新聞業界の人材育成にも力を入れており、編集者や記者、校正・校閲者の養成を行っています。近年の出版・新聞の現場では、デザインやレイアウトにおけるDTPスキルが求められており、文芸学科ではライティングに加えて、DTPの技術を身につける授業も行っています。

その代表的な取り組みとしてDTP

演習では、大正末期から昭和初期にかけて兵庫に居を構え、関西と縁の深い谷崎潤一郎を取り上げた制作を行っています。制作では〈谷崎文学〉を深く読み解いた上で、タイポグラフィの視点から現代的なビジュアル化を試み、文学とデザインの両面からアプローチする課題に取り組んでいます。

本展では〈谷崎文学〉をテーマとしたポスター優秀作品の展示を通して、学生たちが大阪芸術大学において培ってきた学びの成果の一端を紹介いたします。

真田幸治（大阪芸術大学文芸学科特任教授）



大阪芸術大学文芸学科の学生制作によるポスター優秀作品の一部

講演
「谷崎潤一郎と小村雪岱」
真田幸治
(大阪芸術大学文芸学科特任教授)

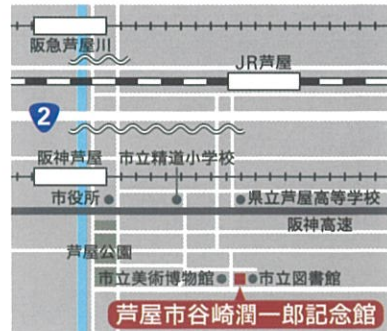
日時
3月1日(日)
14時～15時30分

会場
谷崎潤一郎記念館講義室

受講料
1000円(入館料含む)

定員
30名(要予約)

申し込みは谷崎潤一郎記念館まで
イベント参加者の個人情報、個人情報保護法及び当館を運営する小学館集英社プロダクション共同の個人情報取り扱い方針に基づき厳重に管理し、適正に取り扱います。



徒歩 阪神芦屋駅から南東へ15分
バス 阪急芦屋川駅・JR芦屋駅・阪神芦屋駅から、いずれも「緑町」下車、徒歩1分
駐車場 隣のアート博物館20台、図書館47台

芦屋市谷崎潤一郎記念館

Tanizaki Junichiro Memorial Museum of Literature, Ashiya

<https://www.tanizakikan.com/>

